



山陽小野田市ふるさと文化遺産 「高泊開作」

【問い合わせ先】社会教育課 (☎ 82-1205)

「高泊開作」の物語

詳しい物語の内容は、市ホームページに掲載しています。



現在、市役所や市民病院、小野田駅が建っているところは、昔は高泊湾という海でした。ここを埋め立てて陸となったところが「高泊開作」です。「開作」とは、新たに水田や塩田を開発することをいいます。高泊開作工事が行われたのは、今から約350年も前のことです。「高泊開作」は、当時の萩藩直営の開作としては最大のもので、その後に行われた開作の手本となりました。市内には、「高泊開作」ゆかりの物が多く残っています。

高泊開作工事～汐止め大作戦～

高泊開作工事は、代官であった楊井三之允やないさんのじょうが指揮し、寛文8年(1668年)に始まりました。同じ年の12月に堤防と汐止め樋門が完成しました。樋門は、現在の横土手に造られましたが、後に当嶋八幡宮の下に移設されました。移設後の樋門が現在の「浜五挺唐樋①」です。もとの樋門があったところには、大正6年(1917年)に「汐止記念石(碑)②」が建てられています。

終わらないチャレンジ

汐止め工事完成後も、新たに田を造り、また、村に人が定住するための様々な事業を行いました。田に水を引くために有帆川に「井堰③(水を他所へ引いたり流量を調節するため川水をせき止める所)」を築いたのもその一つです。井堰は石井手と呼ばれ、現在も地名として残っています。また、江汐公園にある「江汐湖④」も農業用水の確保のために寛文12年(1672年)に造られたため池です。

高泊ゆかりの家

江戸時代、村落の長は「庄屋」と呼ばれていました。高泊開作地では目(後の作花)家や中村家などが庄屋を務めました。浜にある「勘場屋敷⑤」は、もともとは高泊開作造成時に建てられた臨時的代官所でしたが、後に目家の住居となりました。高泊開作工事に大変尽力したため、2石と勘場屋敷を給わったといわれています。



[地図]
江戸時代以前の
山陽小野田市



さんようおのだ ふるさと ウォーキング 第9回

ガイドと歩く「高泊開作」ふるさとの魅力を再発見!



■行程(約4km)

市役所(集合)▶汐止記念石(横土手)▶浜五挺唐樋▶勘場屋敷▶高泊神社▶市役所(解散)

〈と き〉12月10日⑤ 9:00～11:00(受付8:45～, 小雨決行)

〈参加料〉200円(当日集金) ※観光協会会員とその家族は無料です。

〈定員〉30人(先着順) 〈申込期限〉11月30日(休)

〈申込方法〉山陽小野田観光協会, 社会教育課, 山陽総合事務所, 各支所に備え付けの申込書に記入し, 申込先へ提出(FAXでも可) ※申込書は, 観光協会ホームページからもダウンロードできます。

【問い合わせ・申込先】山陽小野田観光協会(観光課内) ☎ / FAX 82-1313